

学校教育目標	人や自然に進んでかかわり、自ら学びを高め、心豊かにたくましく生きていく力を育てます。 ～自己教育力とコミュニケーション力～				
	学校概要	創立 116 周年	学校長 相澤 昭宏	副校長 渡邊 知和	2 学期制 一般学級: 19 個別支援学級: 3
児童生徒数: 606 人		主な関係校: 横浜吉田中学校 老松中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	横浜吉田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<グローバル化の中で生きる力> <自分づくりに関する力> <確かな学力>	横浜吉田中学校 本町小学校 みなとみらい本町小学校 南吉田小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分を律し、人を思いやる優しさをもつ子ども</li> <li>○基礎・基本を身につけ、心身共にたくましく生きる子ども</li> <li>○まちを愛し、地域や社会とのかかわりを大切にできる子ども</li> <li>○多様性を尊重し、共生する力をもつ子ども</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中交流日を活用した、「生徒会活動への理解と部 活動体験</li> <li>○ラジオ体操、夏祭り等 地域行事への参加</li> <li>○挨拶運動</li> <li>○中学生による小学校職場 体験</li> </ul>

中期取組目標	<p>○学校教育目標を実現するために、「だれもが、安心して豊かな学校生活を送れる」ような学校づくりを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりが学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。</li> <li>・目の前の子ども一人ひとりとしっかり向き合い、子ども理解を軸とした指導・支援に努め、子どもが安心して楽しく過ごせる学校づくりを進めます。</li> <li>・生活科・総合的な学習の時間を核にして本気で本物とかがわり、さまざまな問題を解決する中で豊かな心と感性、これからの社会を生き抜くための資質・能力を育てます。</li> <li>・家庭・地域と連携し、信頼される学校づくりを進めます。</li> <li>・地域の教育力を生かし、全教職員が創意工夫と組織的な協力(チーム本町)によって、活気溢れる学校運営を進めます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①朝会や日頃の学習を通して、人の話を聴く態度を育てます。②学習状況調査の結果をもとに、児童の実態に合った指導方法の工夫をしていきます。③子どもの学習への意欲を高めて、主体的・対話的な学習を積極的に取り入れ、児童の学びを深めていきます。
豊かな心	①一人ひとりを大切にし、だれもが安心して生活できる温かい雰囲気のある学年・学級づくりをめざします。②様々な学習で、本物にふれる体験活動を取り入れていきます。③道徳科を、年に1回以上は保護者に公開し、実践を重ね、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育みます。
健やかな体	①縄跳びタイムやスポーツタイムを設定し、体力の向上を図ります。②月に1回程度、たてわりグループやペア学年で楽しく運動に親しむ時間を設定し、健康に過ごすための土台づくりに努めます。③学校保健委員会を年2回行い、児童の健康に対する意識を高める取組を行います。
児童指導	①組織的な関わりができるよう、学年研を充実したり、2か月に1回児童指導全体会を行ったりします。②「本町スタンダード」を活用し、学校と家庭が共通理解のもと指導を行います。③友達や教職員、来校者に進んで気持ちのよいあいさつができるよう取り組みます。
特別支援教育	①学習の支援が必要な子どもについて、保護者の意向を確認しながら、個別に指導するチャレンジ教室を行います。②外国につながる子の実態に応じ、国際教室での学習を充実します。③個別学習教室や国際教室に在籍する児童について職員全体で共通理解する機会を設定します。
地域連携	①学校運営協議会を開設し、地域の教育力を生かしながら学校運営力を高めます。②様々な教育活動の中で地域の方や専門家、関連機関と関わる学びを展開し、社会に開かれた教育課程を創造・実践していきます。③土曜参観や保育参観の機会を活用し、幼保との関わりをもちます。
いじめへの対応	①月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努めます。②年2回のいじめアンケートと日常の児童理解の中で、些細な変化を見逃さない体制づくりをします。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームで年間の研修計画を立てて、学習指導、生活指導の実践力を高めていきます。②日常的に授業を見合ったり、教材研究を学年で行ったりして、協働的に指導力向上に向けた取組を行います。③職員の働き方の現状を把握し、休憩休息の時間を確保できるように会議の進め方を工夫します。